

5月30日（木）の生き方科（道徳）の授業では、前回に引き続き「働くこと」についての学習を行いました。今回は一人の人物の生き方（働き方）に焦点をあて、その人の働く姿をじっくり見ていく中で、「みんなで話し合ってみてみたいと思ったこと」や「みんなの考えを聴いてみたいと思ったこと」を出し合いました。今後は、子どもたちの中から出てきた“問い”や“疑問”について、いっしょに考えていくことができるような授業をしていきたいと考えています。

今回みんなで鑑賞したDVD『 プロフェッショナル 仕事の流儀

「希望は必ず見つかる” がん看護専門看護師 田村恵子の仕事」 』

田村恵子さんってどんな人？

田村さんは、終末期医療看護の第一人者で、日本における「緩和ケア」を最前線でおこなってこられた看護師です。

「緩和ケア」とは、がんの治療において抗がん剤などの強い治療は行わず、主に麻薬（医療用）などを使用して、痛みをコントロール（緩和）する治療のことです。田村さんは、末期のがん患者さんの自ら望む生き方に寄り添い、精神的・社会的なサポートをおこなっておられます。

迫り来る死を前に様々な肉体的・精神的苦痛を抱えた患者さんの心に寄り添い、患者さんが最後まで人生を積極的に生きられるよう、希望を見つけられるよう、患者さんを支える仕事をされています。



自分の生き方を見つめるために

多目的室でA組・B組合同でDVDを見ました。そこにはDVDを真剣に見ている子どもたちの姿がありました。今回は終末期医療の現場で働く「田村さん」に焦点をあてていますが、決して「この仕事は素晴らしい」とか、「この人はすごい」といったこと、もっと言うと「このような仕事をしないといけない」とか「こんな人にならなければならない」といったことを思わせたいわけではありません。田村さんという一人の人間の生き方（働き方）を見て、**自分の将来の生き方を見つめる“きっかけ”**にしたいと思っています。

前回の授業で「何のために働くか」というダイヤモンドランキングを行いました。ほとんどの生徒が「お金をもらって豊かな生活をするため」が最も重要であると答えました。もちろん、お金は重要です。今の社会においてお金がなければ生活はできません。でも、本当にそれだけなのでしょうか？お金をもらうためだけに人は苦しい仕事や大変な仕事をこなし、働いているのでしょうか？

働くとはどういうことなのか？その意味を田村さんの姿や子どもたちが率直に思った疑問から考え、自分の将来の生き方を見つめていきたいと思えます。

子どもたちから出てきた“問い”や“疑問”

田村さんは、何がきっかけで今の仕事を始めたのだろうか？
なぜこの仕事を選んだのだろうか？（なんでこんなにめんどくさい仕事をしているんだろう？）
なぜこの仕事を続けられるのだろうか？ 目の前で患者さんが亡くなったりして仕事の内容もハードなのに、なぜ続けられるのだろうか？
なぜそこまで赤の他人にそこまで心に向けられるのだろうか？ なぜ他人のことなのに自分のことのように一生懸命になれるのだろうか？
この仕事をしていて、自信が無くなったり、迷ったりすることはあるのだろうか？
仕事をしていて、しんどくならないの？（やめたくならないのか？嫌だと思わなかったの？）
なぜ患者さんが亡くなっても、すぐ前を向いて仕事をできるのだろうか？ 患者さんが亡くなって悲しくなるのに、また明るく振る舞うことができるのはなんでだろう？ なぜ田村さんはずっと笑顔でいられるのだろうか？（私なら絶対無理）
なぜ田村さんは人前で涙を見せないのだろうか？
なんでそんなに患者さんに希望を与えることができるのだろうか？
なんで患者さんの気持ちや表情を読み取ることができるんだろう？
「がん」って言われて、自分は笑えますか？
人の人生ってなんだろう？
田村さんにとってのプロフェッショナルとは？
なぜ、この番組の人は田村さん取材しようと思ったのだろうか？
入院してくる患者さんはどんな気持ちだったのだろうか？
患者さんはこの病院に入院して、幸せだったのかな？
どうやったら人に信頼されるようになるのだろうか？
クラスみんなは同じ仕事をしたいと思いますか？